

花と温泉を求めて—韓国低山ハイキング(上) (2015.5.27～6.3)

関根 茂子

昨年9月に出かけた韓国低山ハイキングでは、太白山(テペグサン)に雨で登れなかった。というより、「また、くればいいや」と釜山博物館見学に即、切り替えたのだ。どうせ行くなら、今度はツツジの咲いている時期に登りたいとS姉に切望していたところ、この5月末に出かけることになった。もう一つの山は徳邱温泉(ドックオンチョン)から登れる鷹峰山(ウンボンサン)、もちろん温泉泊りのプランだ。かくして昨年のメンバー5人での再び韓国の山旅が始まった。

◆5月29日(雨) 今回は大韓航空KE704便=成田13:55発で仁川(インチョン)17:30着(航空券往復@24,900円) 成田空港第1ターミナル北ウィングからのフライトだった。

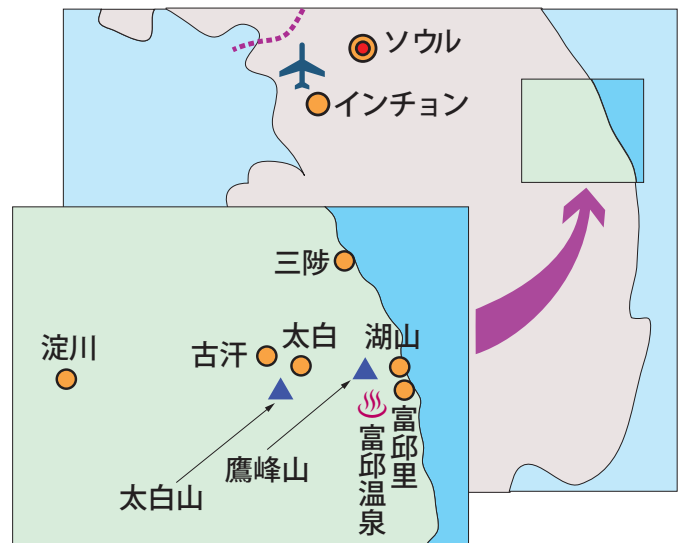
昨年は格安航空便搭乗で機内サービスは水だけしかでなかったが、大韓航空便の今回はまともな昼食が提供された。到着後両替すると円安でレートは10,000円=83,000ウォン(当時は100ウォン≒12円)にしかならなかった。

空港の案内カウンターで予約のホテル(仁川ゲストハウス2泊@6000円)からの依頼した迎え車でホテルへ。この宿は6階の1部屋が事務所、部屋は2階だった。空港から近い10階建てのオフィスビルの空き部屋を利用?と思われる。ビル1階の飲食店街で夕食に水餃子(@6,000ウォン)をとる。

◆5月30日(小雨後曇) 地下二階駐車場に集合(8:



チョウセンツツジ



50)、ほかの宿泊客といっしょに車で仁川空港へ。9:30発仁川=太白は高速バス(@36,900ウォン)に乗車。バスは九里—原州(ウォンジユ)12:00—堤川(チェチョン)12:55—古汗(コファン)を13:55通過一峠をトンネルで抜け見覚えの太白バスターミナル14:30到着した。まずは昼食と手近な食堂に入るがメニューはハングルのみで中身が不明。昨年Tさんが食べて「野菜がいっぱい入っていた」という天山鍋(@7,000ウォン)を注文したが、これは外れだった。

韓国語の分かるS姉とK嬢で、日本語が話せる女の子がいた鉄道駅前の案内所に出向き、今夜の宿や明日の交通手段を聞いてくる間、言葉の分からない私は荷物番となる。

今宵の宿は昨年と同じ東亜(トンア)モーター(オンドル1部屋55,000ウォン)泊となる。お湯をためた風呂に入れたのはうれしい。夕飯に前回の昼食にチヂミを食べた店にいくが、夜は飲み屋になっていた。そこで夕食をとった店に入ると、店の人は私たちを覚えていたようだ。ここでまた天山鍋(@7,000ウォン)を食べる。昨年と同じく焼きサバが一番おいしかった。

◆5月31日(晴) 不要の荷物を宿に預けて、バスターミナルへ。8:00始発の太白山登山口のタンゴル行きの路線バス(@1200ウォン)を待っているうちに1台に5人乗せてくれて10,000ウォンで行く

というタクシーがあった。それで西奥の柳一寺(ウィルサ)登山口から登ることになる。車は昨年、バスが入ったタンゴルの分岐を通り越して、さらに西に走り登山口7:38着。10,000ウォンのはずがメーターは15,500ウォンを示していて言葉が不自由な私たちはどうしようもなくメーター料金を払わざるを得なかった。

登山道の途中で右に入るコースがいいと薦める運転手に見送られて7:50登山口を歩きだし、小沢沿いのオドリコソウ、キンポウゲなどが目につく林道状の道を進む。自家用車が停まっている駐車場を過ぎるとすぐ右手に小道が延びている。足元にラショウモンカズラが咲き、頭上にはマタタビの白い花がかわいい緑滴る小道をじくざぐに登っていく。出発から50分のゆるゆる歩きで尾根に乗り上げひと休み。

石がごろごろした尾根道にはゴヨウマツが多い。休憩地点から30分で到着の1275m峰の右手の岩上が見晴らし台になっていた。下がる時とさっき分けた林道をそのまま上ってくる広い登山道と合流した(9:20)。ここには休憩所もあった。今日は日曜日、登山者が次々に登ってくる。

石段状に整備された登山道にはロープが張られ、林の下にオオサクラソウがたくさん咲いていた。マイヅルソウやツマトリソウも出てくる。お目当てのツツジも出始める。柵に囲われたイチイの大木と説明板(10:00)の先からは、そこそこに韓国で朱木(チュモク)と呼ばれるイチイの木が群生していた。冬の太白山はイチイの樹氷見物が売り物だと観光パンフにあった。またイチイは太白市の木でもある。

ここのツツジは、輪生する楕円形の大きな葉にピンクの大振りの花をつけて見応えがあった。帰国後、ネットで調べると漢字の「躑躅」を韓国語で「チョルチュク(철쭉)」と読み、これが日本に入ってクロフネツツジ=黒船躑躅になったという。「チンダルレ」というツツジもあり、こちらは日本のゲンカイツツジ=玄海躑躅の母種だそうで、06年5月連休にハンラ山で見たツツジ群落はこれだった。

ツツジの群落の中を歩くうちに將軍峰(シャングンボン)1567mに到着(10:35)、石を積み上げた円形の祭壇があるここが標高では最高地点だ。さらに



オオバヤマレンゲ

南になだらかにツツジの原は続き、太白山の大きな石柱と儀式を行う天祭壇がある1560m峰に着く(10:40)。昼食休憩中も後から後から登山者が現れ大賑わいだ。行く手に1547mのプセ峰へとつながるたおやかな尾根が見えるが、15時にはバスターミナルに戻っていなければならない。最短ルートで下山にかかる(11:30)。こちらはゆるい段々道で、下がるにつれてツツジが咲き終わりリンゴの花が咲いていた。

湧水で喉を潤し(11:50)、万景寺の前を歩いて林道状のザラザラ道を下って尾根から沢沿い道へ分岐に着く。ひといきいれて右手に下りること10分ですぐでタンゴル溪谷に下りつく(12:40)。谷沿いにはオオヤマレンゲにそっくりの白い大きな花を下向きにつけた木があった。オオヤマレンゲは関東地方ではめったに見られない。木の下に立ち止まり、咲いている花を見つけては「きれい、きれい」大騒ぎする私たちを行き交う人は怪訝そうに見て過ぎていく。

後で調べてみると、あの花は朝鮮半島から中国東北部の最南部にかけて分布するオオバヤマレンゲだった。オオヤマレンゲとオオバヤマレンゲはおしべの色が違い、オオヤマレンゲのおしべは薄い橙色で、オオバヤマレンゲは深紅色と書いてあった。確かに真ん中に赤いおしべが目立っていた。

1時間歩いて昨年見覚えの登山口広場に到着(13:50)、バス停に向かうと発車まで20分も待つようだ。タクシーがあるので見に行くと朝の運転手が迎えに来ていた。バスターミナルまでメーターは7,800ウォンだったが、10,000ウォンをはずむ。

(続く)